

様式 1

県立緑岡学校【総合的な探究の時間計画】（令和 8 年度）

学校の教育目標

- I 生徒の主体性を引き出すカリキュラム開発と授業改善
- II 生徒の自己実現のための進路指導と進路選択の充実
- III アントレプレナーシップに基づく自己指導力の向上
- IV SSH事業、国際交流事業及び社会貢献活動の推進
- V 働き方改革の実践及び、教職員の教育力の一層の向上

総合的な探究の時間の評価

目標と育成する資質・能力	学習評価	配慮を必要とする生徒への支援方法
<p>(1)科学技術と生命、環境と社会、人間の存在や平等・公正・幸福等について考える探究活動を通して、社会における問題の存在に気づき、多面的な問題解決の視点や方法について考える力を育てる。</p> <p>(2)国際社会に存在する問題に自分自身との関わりを見出し、自ら課題を設定し情報を処理し、論理的に整理し表現する力を育てる。</p> <p>(3)普遍的に人間の尊厳が尊重される社会を社会の一員として目指し、持続可能な社会の 17 の目標実現を意識して生活する意識や態度を育てる。</p>	<p>(1)自主的・主体的に問題解決に向けて調べ、考えを深めることが出来たか。</p> <p>(2)探究の過程を理解するとともに課題解決の手法や相互理解の方法を身につけたか。</p> <p>(3)課題に対して根拠に基づいて考えを深め、論理的にまとめていくことができたか。</p> <p>(4)自らが探究してきたことをポスターやレポートにまとめ他者にわかりやすく伝えることができたか。</p> <p>(5)他者の考えを聞き、疑問に思ったことを質問することができたか。</p> <p>(6)客観的な視点を養い、自己の関心や適性に応じて、主体的に社会に参加し、目標を達成するために自ら行動することが出来たか。</p>	<p>(1)校内での情報の共有化</p> <p>(2)個別の支援計画の制作</p>

様式 1

各学年における主な取組内容

「総合的な探究の時間」を課題研究等で代替している場合の科目名（理数探究）

学年	主たる探究課題及び学習活動	外部との連携	育成を目指す生徒像
1年 「探究Ⅰ」 (普通・理数科)	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ設定（問いの立て方） ・探究の手法の習得（インタビュー等、文献調査、先行研究論文調査、データ解析等） ・ICT活用に関する実習 ・統計スキルに関する実習 ・ポスター、パワーポイント作成実習 ・研究倫理、モラルの習得 ・ミニ探究（地域課題探究） 	<ul style="list-style-type: none"> ・茨城大学との連携（大学教員による講演会、大学院生チューターによる探究活動への支援） ・理化学研究所との連携（女性研究員による講演会） ・水戸市役所 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らが設定した課題を探究するために必要となる考え方や技能が身に付いている。 ・地域の課題や困り事について、その解決策の提案や活動を通して、課題解決に向かうことができる。
2年 「探究Ⅱ」 (普通科) 「理数探究」 (理数科)	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心のある学問分野に分かれてゼミ方式でグループを編成 ・テーマ設定後年間を通して、探究サイクルに沿って実践を重ねる ・中間報告会の実施 ・2月に成果発表会を実施 ・外部発表会等への参加（希望者） 	<ul style="list-style-type: none"> ・茨城大学大学院生チューターによる探究活動への支援 ・各種研究機関や大学教員、または企業による支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な問いを立て、自身の探究活動を自立的に進めることができる。 ・自身の探究活動に必要なデータや資料について理解し、収集、分析することができる。
3年 「探究Ⅲ」 (普通科) 「理数探究」 (理数科)	<ul style="list-style-type: none"> ・探究Ⅱから継続して探究活動を実施 ・7月に最終成果発表会を実施 ・探究活動の成果を論文化して提出 ・外部発表会等への参加（希望者） ・進路希望に応じて、探究活動を継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・茨城大学大学院生チューターによる探究活動への支援 ・各種研究機関や大学教員、または企業による支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動の過程で収集したデータ等を分析し、他者が理解しやすい様に表現できる。 ・計画に沿って一連の探究プロセスを完遂し、活動の記録や振り返りを行うことができる。 ・自分たちの目標に対するゴールを目指して、自身の役割を理解して研究や探究に取り組むことができる。